第 527 回 大学院セミナー

共催：東京歯科大学ウェルビーイングプロジェクト



味覚と健康：
薬剤性味覚障害の発症機構と全身における味覚機能

演者　重村 憲徳　教授

九州大学大学院歯学研究院
口腔機能解析学分野

日時：2026 年 10 月 1 日（木）

18:00~19:00　西棟ラウンジ

味覚は、口腔内の化学物質が生体に有益かまたは有害かを識別し、食物摂取の最終決定をリードするための重要な感覚です。美味しく食べて健康を維持するためには、食嗜好を決定する味覚の受容・伝達・障害機構の分子基盤を解明し、その理解に基づく手段の開発が重要であると考えられます。味覚の受容や情報伝達、その破綻機構の研究は、近年の分子生物学の発展に伴いダイナミックに展開しており、それに関わる多くの謎が急速に解き明かされています。

本セミナーでは、摂食に直接的に影響する可能性がある味覚障害、その中でも比較的発症率の高い薬剤性味覚障害の発症メカニズムについて、我々の研究を中心として紹介させて頂きたいと思います。加えて、味覚受容体が口腔のみならず、気管、副鼻腔、腸など様々な臓器で発現して、独自の機能を発揮していることを紹介し、味覚障害は口腔だけに留まらず全身で生じており、体内栄養・免疫バランス不全と考えられる生活習慣病（肥満・糖尿病、高血圧）や感染症等の発症と関与している可能性についても考察させて頂きたいと思います。

Hirayama et al., *Front Cell Neurosci.* 2023;
Sanematsu et al., *Commun Biol.* 2023;
Shigemura et al., *Nutrients.* 2019